

第19回 岡山オープン バドミントン大会(女子)

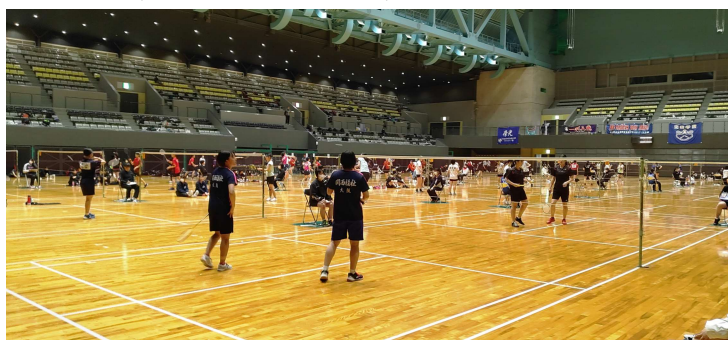
開催日
(令和5年3月29日～31日)

【会場入り口】

開催場所
岡山市総合文化体育館

メインアリーナ 16コート
サブアリーナ 6コート

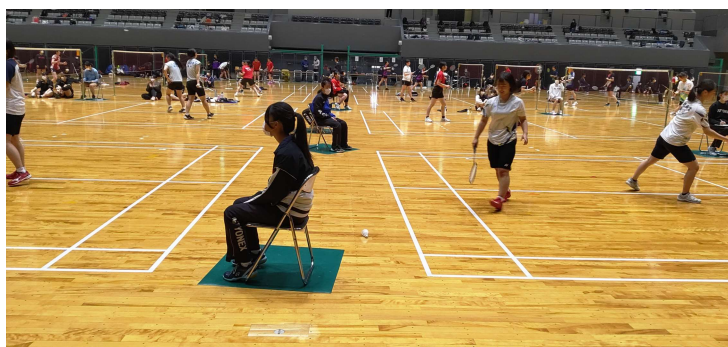
【メインアリーナの様子】 アリーナ北西側より



【メインアリーナの様子】 2階ギャラリー北側より



【メインアリーナの様子】 アリーナ西側より



【サブアリーナの様子】 入口付近より



広報用実績のまとめ

令和 4 年度

団体名	
岡山オープンバドミントン大会 実行委員会	委員長 代表者 山田 賢一 副委員長 記載者 松井 千明
所在地(市区町村名のみ) 岡山市中区	
活動目的	全国規模に近い形の大会を毎年誘致することで岡山市内の高校を中心とした、バドミントン競技者の育成と技術向上を目指すとともに地域の活性化にも貢献する。
団体の紹介 平成16年開催岡山国体開催後のジュニア層の選手強化を継続的に実施するための一環として、当時の全国高体連バドミントン専門部副部長の提案(専門部部長の協力)で岡山県高体連バドミントン専門部一部の委員を中心に組織された。その後、大会の規模等を考慮に岡山市バドミントン協会が組織の運営に参画した。全国大会に準ずる大会のため、毎年8か月程度の準備期間を経て3日間(3月29日～31日)の大会を運営しています。	
助成を受けての活動内容 令和5年3月29日(水)～31日(金)の3日間、岡山市総合文化体育館(22コート)と六番川水の公園体育館(8コート)の2会場の30コートを確保して大会を運営いたします。(参考:2016岡山インターハイでは男女合わせて34コート使用。女子で考えると16コート) 現在開催要項を該当校(各都府県内ベスト4程度の高校)に発送し受付を始めております。 新型コロナウイルス感染症蔓延以前に開催した大会において、女子は15府県51校79チームの参加があり、A級52チーム・B級27チームに分けて、実質2.5日間の日程で全国大会に準ずる規模の大会を実施いたしました。 助成をいただいたおかげで、本年の大会も例年程度の参加数を目安に、主催者側としては慌ただしく準備をしています。 しかし、生徒派遣規定が各都府県や学校ごとに異なるため、参加校が決定する3月上旬にならないと大会の規模が判明しない点や、新型コロナウイルス感染症への対応準備期間が非常に少ないのが大きな課題となりそうです。 最後に色々と援助・支援をいただいた貴財団などに感謝しながら、お互いの競技力・技術力・体力・精神力などの更なる飛躍を目指し、来る全国高校総体(インターハイ)に向けての大会が開催される出来るよう委員会として準備をすすめてまいる所存です。	
助成を受けての成果 大会の規模を考えると、最低でも大規模の公共体育館を2カ所、3日間確保することが必要です。このため、借料損料は大きなものになるため、これを抑えるための色々な工夫をしていました。 今回は、今まで一番工夫をしていた照明(照明設備の点灯数を開催に必要な最低レベルで抑える)を、全国大会と同様レベルで使うことが可能となりますので、今回の助成には本当に感謝しています。	
今後の活動の課題点 新型コロナウイルス感染症に対する細かな配慮や各消耗品価格の上昇、宿泊先の価格上昇に伴い、主催者側・参加者側の経費負担上昇が大きな課題です。	
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど) 問い合わせは岡山市バドミントン協会(okayamashimintaikai@gmail.com)または、松井(macy@pp.ij4u.or.jp)まで	